

【別紙】平成31年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立 青木中 学校)

(A 4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	心を磨く(徳力) 身体を磨く(体力) 智性を磨く(知力)
目指す学校像	心の教育を基盤とした「文武両道」を実践し、地域から信頼される学校

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者(教職員を除く)	4名
事務局(教職員)	2名

学 校 自 己 評 価						
領 域	年 度 目 標			年 度 評 価 (令 和 2 年 2 月 1 7 日 現 在)		
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
組織運営	・2,30歳代の教員が全体の半数以上を占め、本校在職5年未満の教員が7割を占める現状である。課題として、現状を踏まえ、成果や実績は引継ぎつつ新たな体制にあった組織改善の実施していく。	・青木中の教育活動の核となる道徳教育の推進を委嘱研究中間発表にむけて全校体制で組織的に取り組み、各分掌組織の連携を密にし、「ハートフル青中」の取組をより一層推進する。	・中間発表を核とし、全校体制で委嘱研究を行い、各分掌組織が有機的に機能するよう、全教職員の共通理解・共通行動の徹底を図る。また、生徒指導と教育相談の連携を密にし不登校生徒の割合を2.1%以下にする。	・市教委嘱発表に向けて、研修計画に基づき指導主事を招聘するなど全校として、計画的に取り組むことができた。 ・生徒指導と教育相談の連携は図れたが、不登校生徒の出現率は目標を超えた。	B	・本発表に向けて、校内が組織的に機能するよう、研修主任に働きかけ、全教職員が共通行動することで、研究の成果を高める。 ・学年主任を中心として、生徒指導・教育相談の各学年での連携を強化させる。 ・家庭との連携を強化する。
教育課程	・生徒が主体となる授業を展開するための見通しと振り返りのある授業実施は定着している。課題として、振り返りの部分は教員によって効果に差がある。個に応じた指導の推進と家庭学習を中心とした、学習習慣を確立させる。	・振り返りによって、生徒が次時への興味・関心・意欲を高めつつ、本時の学習内容の定着や深化を図るための家庭学習に意識的・計画的に取り組めるようにする。	・振り返りの時間の効果的な活用について創意工夫を重ねる。まず、学習内容の定着の確認である。さらに、学習内容の深化発展を促す新たな疑問の投げかけや、家庭学習へつながる指導と指導法を改善する。	・人事評価の面談等を活用し、授業改善への取組を行なった。生徒主体の授業への取組など前向きな実践が多く見られた。 ・全国や県の学力学習状況調査においても、伸びが確認できた。	A	・学習の定着に時間が掛かる生徒への支援が弱い。今後、学習習慣の確立、家庭学習の支援を確実に行わせる。 ・家庭との連携を強化する。
開かれた学校づくり	・土曜公開授業をはじめ、ふれあい授業、学校地域連絡会、PTAバザーなど地域の人々を学校に招く取組は充実している。また生徒は、夏季休業中の朝のラジオ体操を始めとした様々な地域の取組に積極的に参加している。	・昨年度より取り組んでいる「小中連携一貫教育推進事業」も活用し、保護者や地域の学校に対する関心をさらに高め、家庭・地域・学校が一体となった教育をめざす。 ・学校HPなど、学校からの発信を増やしていく。	・昨年度委嘱を受けた「小中連携一貫教育推進事業」を、これまでの取組を土台として校区小学校2校と連携し、推進する。また引き続き地域活動への生徒や教職員の参加を働きかける。 ・学校HPのリニューアル	・学校HPをリニューアルし、学校の情報をより多く発信できるようにした。 ・小中連携一貫教育推進事業により、これまで以上にお互い行事に参加し合い連携は深まった。	B	・保護者・地域へ開かれた学校を目指すこれまでの取組は、継続する。 ・令和3年度からの学校運営審議会の設置に向けての準備に取り掛かる。
教職員の資質向上	・人事異動等により初任者や若手教員が増える一方、中堅教員が極めて少ない傾向がより顕著となり、年齢の二極分化が進んでいる。課題として、若手教員の育成が喫緊の最重要課題である。	・管理職のリーダーシップのもと、ベテラン教員の指導力を若手教員へ継承させ、学校全体の指導力を向上させる。	・若手教員を各種主任等の中心に積極的に充て、育成を図る。 ・諸会議等で、積極的な意見交流させることで、視野を広げさせる。 ・服務規律を確立し、危機管理意識を高める。	・市教育委員会の指導主事を招聘し、教科の指導力向上に向けて取り組めた。 ・道徳の研究委嘱発表に向けて、指導力向上が図れた。 ・危機管理意識向上に向け、学期の重点目標を定め取組めた。	A	・生徒・保護者へのより柔軟で、対応力のある教職員を育成するため、研修内容や方法を研究する。 ・道徳の研究本発表に向けて、より実践力を身に付ける授業を実施させる。 ・時間を意識した勤務について、意識を高め、業務を見直し
施設・設備等の管理	・清掃は行き届いているが、校舎や施設設備の老朽化が進んでいる現状の課題がある。また、学校図書館が十分に機能していない。蔵書も充分でないため、活用状況も低い。 ・教材で活用する紙、イ	・学校図書館司書を配置することにより、生徒が足を運びやすくなる図書館を目指す。 ・校務PCの活用を推進し、ペーパーレス化の促進、無駄のない予算執行をおこなう。	・計画的な修繕活動を行う。・予算面でも図書購入費を十分に確保し蔵書を充実させる。 ・学校図書館司書と教職員が連携し、委員会活動を活性化を図る。 ・校務PCの活用し、効率的な職務を遂行する。	・学校図書館をリニューアルすることができた。 ・PDC Aサイクルを活用し、学校財務の見直しを行うことができた。 ・校務支援PCの活用幅が広がり、効率的な職務改善につながった。	B	・職員・来賓用トイレの改修など、計画的に実施する。 ・学校図書館では、展示図書にオリジナリティを持たせるなどの工夫をする。 ・校内掲示物の掲示の仕方を工夫させる。

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和 2 年 2 月 2 1 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・若手の育成は、どの業界でも課題となっている。委嘱発表に伴う研修体制を、各教科の研修に応用しながら、組織的な対応に努め若手教員指導力の向上を目指してほしい。	
・課題は家庭学習の定着である。改善に向けて家庭学習の習慣の定着と学習内容について粘り強く指導していく必要がある。保護者会をはじめ様々な機会を捉えて家庭学習の定着が学力向上や生涯学習の動機づけとなることを発信していく。	
・小中連携一貫委嘱発表の本発表を迎え、年度初めに企画立案した取組の実施について、振り返りと今後新たな実践への継続が必要になる。そのため、教頭及び主幹教諭を指導し、継続的に実践していくことが課題である。	
・家庭環境も変化し、生徒への指導も多様化している今日、より柔軟性のある指導を行うために、校内での研修や生徒への講演会などの啓発事業も積極的に行ってほしい。学校運営について全教職員が共通理解・共通行動をすることが課題である。	
・学校図書館のリニューアルは、よかった。今後の活用方法に期待する。また、校舎や施設設備の老朽化が加速度的に進む中、修理修繕もかなり大規模にならざるを得ない現状である。市教委等との連携連絡やより長期的また広範囲にわたる修繕計画が必要となる点が課題である。	